

地域づくり活動NPO事業助成事業 実績報告

事業区分 (13 — 3)

団体名	(特非)ふぉーらいふ	代表者名	(職名) (氏名) 理事長 中林 和子
事業名	家庭に居づらさを抱える子ども・若者の安心できる 居場所(カフェ)作り		

< 事業実施実績 >

年月日 定例は「月1回」 「毎○曜日」等で 記入	場所	参加者 一般 (スタッフ)	活動内容 (勉強会や定例会、講演会、イベントなどを幅広く記入) 講演会、イベント等はタイトル・講師・会場等を併記
4月1日～2月28 日	法人事務所	1 8 (156)	毎月曜・木曜の週2回居場所開所 (78回)
8月20日	法人事務所	1 (2)	事業説明・情報共有など
9月1日～9月13 日	法人事務所	1 (20)	期間内平日に電話相談と計4回の居場所開放

< 効果と成果 >

昨年度に引き続き、居場所を必要とする子ども・若者が経済的な問題などの家庭の状況に左右されないよう、本人の負担なく利用できる居場所を体制ができた。

昨年度から続けて利用されている方に加えて、新規の問合せや相談もあり、やはり地域にある居場所のニーズがあることを実感できた。相談では、「直接、支援に繋がるような場所がわからない」という問合せもあり、行政機関や避難シェルターを含めた情報を提供、相談者の状況に合わせた制度の説明も行うなど、利用された方の最善の利益を考え必要な情報を提供できた。

また、今年度から居場所の空間作りにもこだわり、ゆったりできるソファや温かい飲み物を提供することなどより過ごしやすいカフェようなスペースを作り、見学に来られた方や実際に利用した方から「のんびり穏やかに過ごせる雰囲気が良い」との声をいただいている。

< 今後の展望 >

事業として居場所の機能を大切にしており、居場所としての役割があると考えてきたが、なかなか居場所の利用まで繋がらないケースが少なからずあることから、居場所を利用する前段階のしくみを見直す必要性が新たに課題としてあがってきている。現状は居場所を利用する前の受け皿としての相談も受けているが、結局事業を知らない限り相談にもつながらない状況にある。そのため、相談の部分を居場所から出し、外部の一般の方が利用できるような施設に出向き、必要な人の相談を受けることで、居場所の広報にも繋がるのではないかと考えられる。また、実際に相談を受けている方も、「そもそもどういう所でどういう支援が受けられるのか」を全く知らないという状況のため、まず相談を受けて行政機関や民間施設、制

度についての情報を提供することで、解決に近づくケースもある。

そこで、行政は少しハードルが高いという方でも利用できるように身近にある相談支援として、相談を受ける場所や体制などを検討していく。

<収支決算書>
(収入)

項 目	金 額 (円)
地域づくり活動NPO事業助成金	3 5 0 , 0 0 0
自己資金等	8 , 7 7 9
合 計	3 5 8 , 7 7 9

(支出)

区分	項 目	金 額 (円)	左のうち 助成対象金額 (円)
直 接 経 費	ボランティア報償費	8 8 , 0 0 0	8 4 , 5 9 6
	人件費	1 7 5 , 0 0 0	1 7 5 , 0 0 0
	消耗品費	6 6 , 9 2 9	6 6 , 9 2 9
	その他 (ボランティア交通費等)	2 4 , 0 7 5	2 0 , 6 0 0
	小 計	3 5 4 , 0 0 4	3 4 7 , 1 2 5
間接経費 (一般管理費)		4 , 7 7 5	2 , 8 7 5
合 計		3 5 8 , 7 7 9	3 5 0 , 0 0 0